



潮流

2014
3月号
No.236

大津島(平成26年 2月1日現在)
人口 347人(男151人 女196人)
高齢化率 72.6%

ぶちひさしぶり

婚姻届が大津島に!!

平成26年3月をもちまして、島おこし隊員の任期が終了となります。

この3年間は、毎日が「初体験」の連続で、今日までの「貴重な経験と皆様との出会い」は、一生の財産となりました。心より感謝しています。ありがとうございます。

そしてこの度、古城あゆみさんと結婚しました事をご報告させていただきます。今日に至る事ができましたのは、いつも温かく見守って下さった皆様のご理解とお心配りがあってのことと、心よりお礼を申し上げます。未熟な二人ですが、共に支え合いながら、先輩方に負けない「幸せな家庭」を、築いて参りたいと思っております。

隊員としての活動は終わりますが、今後は「イチ島民」「イチ夫婦」として島に残り、大津島のために活動してまいります。今後も皆さまには、変わらぬご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

大友翔太・あゆみ



大友翔太さん・あゆみさん(旧姓古城)・のんたん(チワワ)

平成二十六年一月。新春早々、支所に大変おめでたい届出がありました。大友翔太さん(島おこし隊員)と、古城あゆみさん(馬島出身)が、二人仲良く婚姻届の提出に、来られました。今後は、大友さんの住む本浦にて、新しい生活をスタートされます。皆さん、温かく見守ってあげてください。周南市大津島支所長 神谷 正幸



「お祝いの言葉」
ご結婚おめでとうございます。青い空と海、五つ島に映える朝日。今日一日に期待がふくらむような、爽やかに晴れた朝の景色が私は好きです。お二人の門出を知ったとき、同じような爽やかな希望を感じました。大津島で結婚し、大津島で新婚生活を始めるケースは、三〇年振りくらいではないかと聞きました。過疎高齢化が進み、未来への展望を聞き難いこの島で、若い二人が幸せに暮らせることの証となつて欲しいと願っています。微力ではありますが、援をしたいと思います。若いお二人、力を合せて頑張ってください。

末兼正純

大津島の人々 (4)



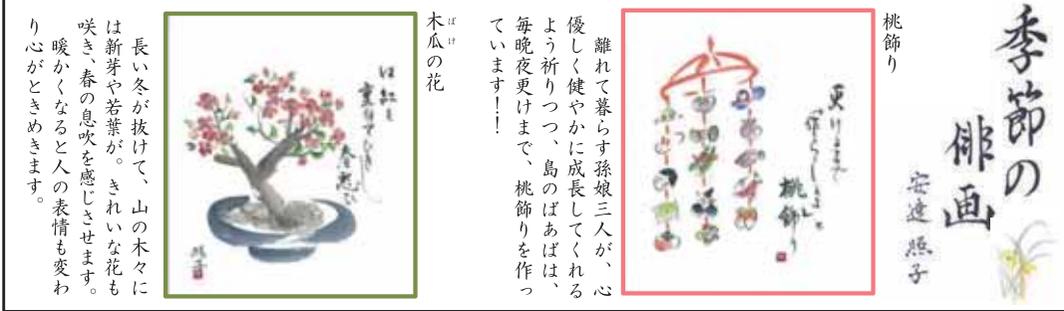
平成7年10月8日「徳山のんた祭り」

古城 唯夫 (にじょう ただお)さん

平家踊り保存会会長。大津島出身。大正13年生まれ。90歳。平成元年より会長を務め、現在に至る。

Q昔の平家踊りは、
A昔の昔は、より踊りよつたよ。「ぶく縄漁」をききよつてやりの人が多くいて、冬中は沖へ出て、夏中は陸あがちよつたから、暇があれば集まって、踊りの練習をし、口説きの練習をよへやりよつた。「アロロ」や「盃蘭盆踊り」のほかに「にじょう」晩方にならば「ドンド」「ドンド」太鼓を叩きあげ、昔じゃから楽しみも少ないので、皆あれにたかりよつた筈昔は、踊るもんもようけおつて、西と東で分かれて競うよつた。じゃからすくはずむいね。場所はどこでも、大根畑でもやりよつた。青年になれば、一様に口説きもできん、太鼓もできんじゃ舐になりよつた。夜明けまで踊るもんもおつたものごね。

Q最近の保存会の様子は、
A平家踊りは、外輪と内輪に別れ踊るが、外輪の人は槍を持つて激しく踊るんじや。皆年をとりの、足腰が悪うなつてしまつて大変じゃいね。
Q今後について
A平家踊りは、馬島の宝、どうでもやらんじやあいけん。何百年ちゆう伝統があるんじやけん。じやが年には勝てず、このままじゃあ保存会の存続が難しくなつてきりよる。保存会が無くなつてしまつのは、凄く悲しい。後の世代にどうやって引き継ぐかが問題じゃね。引き継ぐことができんじやあ、島の宝を失つてしまつことになる。それはすく勿体ないこと。フシが続けられればいいが、年には勝てんしね。皆にできるだけ協力してほしいと思つちよる。
保存会が新しい世代になり、平家踊りがより活気づくと良いのお。(聞き手文 大友)



長い冬が抜けて、山の木々には新芽や若葉が。きれいな花も咲き、春の息吹を感じさせます。暖かくなると人の表情も変わりがとぎめきます。

離れて暮らす孫娘三人が、心優しく健やかに成長してくれるよう祈りつつ、島のばあばは、毎晩夜更けまで、桃飾りを作っています!!

季節の俳画
桃飾り
安達照子

海 の街道・十 【大内政弘】



イメージ…谷井健三
文=末兼正純

室町時代に西国の雄として権勢を振るつた大内氏は、幾度か大軍を率いて都に乗り込んでいた。そのルートは、山口から三田尻港へ出て、海の街道を上方向へ到るものであった。一四六七年に始まった応仁の乱は、將軍家をはじめ諸有力大名の骨肉相食む相競争いがエスカレートした訳の分からない戦である。緒戦で采気なく東軍の勝利に終わるかに見えたが、西軍の要請を容れた二十一歳の太田内二十九代政弘が三万五千の兵を率いて入京参戦し、二ヶ月足らずで形勢を逆転させた。政弘はその兵を陸路と海路に二分して攻め上るが、政弘自身は海路をとっている。海の街道を征く大船団はさぞかし壯観であつたらう。そして戦は長期戦となり、当時の京都の人口二二万を超える三〇万近い兵が十年にわたつて年に三、四回大合戦を繰り広げ、都は焦土と化し荒廃を極めた。戦は決着のつかないまま、諸大名は当事者が死没したり、戦に倦んで国元へ帰つたりし始める。一四七七年一月西軍の総大将格の大内政弘も、兵を撤回して周防国へ帰つてしまふ。歴史はこれをもって応仁の乱の終わりとしてゐる。三十一歳で山口に帰つた政弘は、四十九歳で没するまで、水墨画で有名な雪舟や連歌の宗祇のバトロンとなるなど、文化的で平穩な暮らしを送っている。

私は大津島本浦で生れ、育ち、現在に到りました。若い時は長年農協に勤めさせて頂きました。其の間多くの方に接し色々な教を戴き、私のお勤め人生に大きな力となりました。又お勤めをしたら光満寺様のお手伝いもするようになりました。其の頃良くお寺に参られるお年寄りグループ十人位がおられました。愉快な方ばかりでした。お寺には昭和三十二年五月仏教推信会が誕生致しました。私も会員の一人です。五月には降誕会と言って親鸞様の御祝事が催されます。其の折には、必ずグループの方が長持唄で参加されました。お寺までの道中唄、本堂での本唄それはとても一生懸命でした。

グループの方が、年齢的に御無理となり、今度は唯信会員が継続し、平成四年まで続きました。以後は伝統芸能の会が発足して、現在の長持唄保存会となりました。保存会になりました。市の色々な行事に参加致しましたが、其の内一つに「徳山のんた祭り」が、平成十年十月に行なわれました。長持唄は二十九名で参加出演致しました。初めての祭りに参加です。準備、練習等大変でしたが、皆で協力して整いました。

当日は、ジャギリの部として、キララ通りくびあモールをへて本部長に戻り、市長さんの前で唄いました。途中の銀座では出演者の「カツラ」が落ちました。とんでもない「ハブニング」大笑いでした。本部長では、市長さんに「長持唄」は愉快で楽しいねえと言って頂きました。嬉しい一言でした。此の様にして参加の役割を終えて全員帰島致しました。想い出の一日です。



「島の節句」
文＝松本 千恵子

節句と聞くと、顔がほころぶ人が、けっこう居ってじゃあなかろうか。旧暦の節句、島じゃあ「こねえな日に家中に居るもんじやあない。蛆がわく」ちゅうて、朝から弁当提げて友達と一緒に、磯に行ったり満開のレンゲ畑に行ったりしたものじゃったね。そう簡単に買い物も出来ん時代じゃったが、母親は有り合わせのもので工夫を凝らして、巻き寿司やら梅や松の形の押し寿司やら、煮しめ、卵焼きなんかを持たせてくれたね。

日頃は手伝いをさせるのが日課じゃった子供には、弁当持ちで一日遊べる節句が嬉しゅうてね。トンネル口の白石に登って弁当を食べて、トンネルの中や上の小屋の探検をした後、見よう見まねで磯をし

～若潮の会通信～

18歳の時に大津島を離れ、現在は防府市に住んでいます。昨年秋、仕事を終え車に乗り込んだ時に同級生から一件のメールが届きました。「今、防府駅の居酒屋で内田先生と飲んでいるから来ない？」

中学時代の恩師で、数学を3年間教わり、3年生の時は担任でした。教育熱心で休憩時間が終わってもまだ数学は終わらず、次の授業の先生が廊下で待つこともあったり、怒ると「立つちよれー」と、大きな声が教室に響く事もあった怖い先生を思い出しながら居酒屋に向かいました。「お久しぶりです。」と、挨拶を交わした目の前には、まるく小さくなった優しいお爺ちゃんが座っておられました。

38年ぶりの再会でした。年月の経過を感じながら、懐かしい数々の思い出話であったという間に時間が経ち、別れ際には畑で採れたさつま芋を頂きました。

島で育ち、数多くの思い出が島にある。そんな島に「恩返しをしないか？」との誘いで同級生4人で始めたポテトマラソンのボランティア活動。それが徐々に人数が増え、そんな有志の集まりで発足したのが若潮の会。また、この仲間たちと、大津島の未来を語りながら、多くの思い出を作りたいと思います。

文＝赤瀬 清和

ひろしのつぶやき

もったいない？ けちな奴。どうしても捨てられない。そんなに大事な物ではないのに、何時か何処かで役立つだろうと、どうでもいい物でも捨てられない。よしと決めた。

捨てよう。まず浜辺に流れて着いた軟球ボール、ソフトボール、テニスボール。一袋に五十個、十袋ある。拾い集めた子供達の宝物だ。愚息等が読んだだろう漫画本。段ボール箱に何十。私が集めた新聞広告チラシの裏の白い紙。戦中戦後の貧困生活を子供の頃に過ごした私には、容易く捨てる事が出来ぬ。

衣類もしかり、丈夫で破れない。買う事も無い。買う必要もない。息子等の着



【断捨離】
文＝屋野 廣志

古したジャージで結構温かい。日中は作業用ヘルメットで頭を保護し、これでは消費経済効果は望めない。我が家に「アベノミクス」は通じない。

友々は立派な家屋耕地を放棄し、墓石を町に移し、思い出多いこの島の大きな立派な家屋を解体する彼等の心中を思う時、人生の終を感じ、その勇気と覚悟を感じる。

どんな大事な物も、大切な事も、己の終には全てを捨てねばならぬ。それ程に大事な物はない。捨てよう。どうでもええ物から捨てよう。…まで、邪魔にもならぬ、重たくもない、ゆつくり捨てよう、粗大塵と共に…とつぶやいてみる。

～建国記念日奉祝行事 開催～

2月11日。「体験交流施設 大津島の郷」にて、建国記念の日奉祝行事が行われました。

今年は、海の郷所長 小池良太さんに、平成25年度の利用状況や活動報告等をしていただきました。

恒例のビンゴゲームの後、バーベキューの新メニューに、焼きそばを追加したところ「大盛況」でした。

今年も多くの皆様のご参加ありがとうございました。

平成10年10月4日
「徳山のんた祭り」

～事務局からのお知らせ～

大津島地区社会福祉協議会よりお礼
平成25年度善意銀行へのご寄付をありがとうございます。

- 預託者 安達 恭一様
亡父 安達 守夫 様の香典返しとして
金 10万円 (市社協 20,000円 大津島社協 80,000円)
- 預託者 西山 和彦様
亡父 西山 鶴之進 様の香典返しとして
金 5万円 (市社協 30,000円 大津島社協 20,000円)

編集後記

「ふんばり？ えっ食べ物の名前？」
まず浮かんだ思案は、“ふん”といえ、あのフンじゃろうか。“ばり”といえ、(〇〇のような)という意味じゃから直訳すると、<フンのような>。いやいや違うじゃろう。次の思案は、動詞として<踏ん張り>ということか。食べたらたちまち力がみなぎるようなものじゃろうか。別名【あまんだモチ】ということで、なんとなく想像。みんなで作ってみよう公民館講座を企画しました。この前は、【こみそ】を3人のレディに教えてもらい、今回も素敵な女性に習います。次号での報告をお楽しみに。 六郎万淳一

旗立ち～卒業式が行われます～

第65回卒業証書授与式
大津島中学校 体育館にて

- 3月8日(土) 10:10～11:30

移動図書館<やまびこ号 Jr.>
3月25日(火) 4月22日(火)

- 馬島巡航待合所 11:30～12:00
- 刈尾巡航待合所 12:20～12:50

民生委員・児童委員の改選。

馬島地区の担当が古城隆夫さんから渡辺あゆ子さんになりました。何か困ったことや、悩みごとがありましたらお気軽にご相談ください。

本浦	／ 河嶋 芳隆
近江・瀬戸浜	／ 武田 頼子
刈尾	／ 石田 久子
天浦・柳浦・馬島1	／ 安達 暁
馬島2・3・4・5	／ 渡辺あゆ子
主任児童委員	／ 松本 千恵子

大津島さくら祭り開催。
日時：4月5日(土)
今年は、軽食販売がある予定です。“午年馬島ウォーク”も開催予定。詳細は、回覧します。